

小児治験に関するアンケート調査へのご協力をお願い

平成 20 年 6 月 15 日

拝啓

初夏の候、先生におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、現在、国内の医療機関で小児科医が処方する医薬品の 6 割から 7 割は添付文書に小児への適応が記載されていない、いわゆる適応外使用（オフレABEL）の医薬品です。この理由は、厚生労働省が治験によって得られる資料やそれに準じた臨床試験で得られたエビデンスをもとに承認審査を行うのですが、小児を対象にした治験が極めて少ないため、小児に対する承認が得られないことにあります。医薬品医療機器総合機構の公表資料によりますと、現在、国内で 1 年間に新たに承認される医薬品は約 60 品目ですが、その内、小児への適応があるのは 15-20%にしかすぎません。このような状況で、医師は小児に対し適応のない医薬品であっても、他に使用できる薬がないので適応外使用を余儀なくされていることとなります。

そこで私達は、厚生労働科学研究費の補助を受け、小児用医薬品の開発のために治験をどの様にして進めていけば良いか、治験をうまく進めるためにどのような人材が必要で、どのようなことを整備していけば良いのかということを検討するために研究を開始致しました。その手始めとして、日頃小児の診療に携わっておられる先生方が、小児に使用できる新薬の開発、治験やその参加についてどう思われているかについて調査させて頂くことに致しました。

この研究の代表者をはじめ分担研究者 3 名は現役の小児科医（勤務医）であり、小児科医の厳しい労働環境についてよく承知致しております。そのうえで、小児科医が抱く治験に対する考え方や、治験を進めるのに必要な要素は何かを解析し、国内での治験を活性化して小児に使用できる新薬の開発につなげていきたいと考えております。この研究の趣旨をおくみ取り頂き、何卒宜しくご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、本調査は無記名式質問紙調査であり、統計学的処理を施したデータのみ利用させていただきますので、ご協力頂きました回答者ご本人や所属先が特定されることはございません。また、本研究以外の目的に使用することはございません。ご返送頂きました回答紙は研究室内にて施錠管理し、研究終了後はシュレッダーにより破棄致します。研究結果は厚生労働省への報告書にまとめて提出する他、専門学会および学術雑誌に発表させて頂くことがございます。ご協力頂けない方にも不利益が生じることは一切ございません。

ご回答頂きました調査用紙は、同封の返送用封筒に入れて頂き **7 月 10 日 (木)** までにご投函頂ければ幸甚でございます。本調査に関するご質問やご意見がございましたら、大変お手数ではございますが下記連絡先までご一報下さい。

大変ご多忙の折誠に恐縮ではございますが、我が国の小児医療の進展に資する重要なデータになり得ると考えておりますので、何卒ご協力の程重ねてお願い申し上げます。

敬具

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金 医療技術実用化総合研究事業：臨床研究基盤整備推進研究
「小児の臨床研究推進に必要な人材育成と環境整備のための教育プログラム作成」



滋賀医科大学医学部附属病院治験管理センター 中川雅生
滋賀医科大学小児科学講座 竹内義博
京都女子大学発達教育学部児童学科 大野雅樹

<連絡先> 滋賀医科大学小児科学講座 中川雅生

TEL : 077-548-2228 FAX : 077-548-2230

小児治験に関するアンケート調査

A-1 あなたが現在所属する医療機関を下記より1つ選んで数字を○で囲んでください

- 1 国公立大学医学部附属病院
- 2 私立大学医学部附属病院
- 3 国公立小児専門病院
- 4 私立小児専門病院

A-2 あなたが現在所属する医療機関を下記より1つ選んで数字を○で囲んでください

- 1 小児病院など小児専門の医療機関
- 2 小児科以外の診療科も標榜する医療機関

B あなたの臨床経験年数を下記より1つ選んで数字を○で囲んでください

- 1 5年未満
- 2 5年以上 10年未満
- 3 10年以上 15年未満
- 4 15年以上 20年未満
- 5 20年以上 25年未満
- 6 25年以上 30年未満
- 7 30年以上

C あなたの卒後年数を下記より1つ選んで数字を○で囲んでください

- 1 5年未満
- 2 5年以上 10年未満
- 3 10年以上 15年未満
- 4 15年以上 20年未満
- 5 20年以上 25年未満
- 6 25年以上 30年未満
- 7 30年以上

D あなたが現在所属する診療科を下記より1つ選んで数字を○で囲んでください

- 1 小児科
- 2 小児科以外の小児を専門とする診療科
- 3 小児を専門としていない診療科

E あなたが現在専門としている領域で主なものを下記より1つ選んで数字を○で囲んでください

- | | |
|---------------|----------|
| 1 小児内科 | 14 小児外科 |
| 2 神経内科 | 15 整形外科 |
| 3 循環器科 | 16 心臓外科 |
| 4 麻酔科 | 17 眼科 |
| 5 血液・腫瘍科 | 18 耳鼻咽喉科 |
| 6 未熟児・新生児科 | 19 脳神経外科 |
| 7 腎臓・泌尿器科 | 20 形成外科 |
| 8 精神・心療内科 | 21 歯科 |
| 9 内分泌・代謝科 | 22 皮膚科 |
| 10 アレルギー・感染症科 | |
| 11 産婦人科 | |
| 12 呼吸器科 | |
| 13 消化器科 | |

F あなたが所属している医療機関ではこれまでに治験の参加経験がありますか？経験があれば参加回数もご記入ください

- 1 ある（計 回）
- 2 ない

G あなたご自身はこれまでに治験の参加経験がありますか？経験があれば参加回数もご記入ください

- 1 ある（計 回）
- 2 ない

本調査紙での用語について

小児治験：今回「小児を対象とした臨床試験」とせず「小児治験」と致しましたのは、小児用医薬品開発が十分推進されていない状況を踏まえ、医薬品開発を念頭に置き治験と致しました。

未承認薬：ここで言う未承認薬とは、「国内で承認された医薬品で、添付文書に記載された効能・効果もしくは用法・用量以外で使用されている医薬品」を意味しています。

他国（諸外国）：医薬品承認状況が日本と同程度、もしくはそれ以上のレベルの国を意味し、具体的には、アメリカ合衆国、イギリス、ドイツ、フランスをさしています。

A

あなたは小児治験に関してどのようにお考えですか？
右の回答項目1～4のうち、もっともあてはまると思うものを
1つ選んで数字を○で囲んでください。

全く
そう
思わ
ない
1
2
3
4
非
常
に
そ
う
思
う
4
3
2
1

1	小児用として承認された薬剤が稀少である	1	2	3	4
2	小児治験は入院病棟のある施設で行うことが望ましい	1	2	3	4
3	小児用医薬品の開発が促進されなければならない	1	2	3	4
4	人手不足により日常診療業務をこなすのに精一杯である	1	2	3	4
5	他国で小児用に承認されている薬剤の国内承認を進める必要がある	1	2	3	4
6	日常の診療業務に追われていて小児治験に参加する時間的余裕がない	1	2	3	4
7	小児治験によって得られるデータは有用である	1	2	3	4
8	小児治験の参加について保護者の理解と同意を得るための労力が負担である	1	2	3	4
9	オフラベル（適応外使用）問題を解決することが望ましい	1	2	3	4
10	小児治験よりも他の研究のために時間を費やしたい	1	2	3	4
11	小児治験に参加すると研究費が病院の収入になるのが良い	1	2	3	4
12	小児治験での手間のかかる煩雑な事務手続きが負担である	1	2	3	4
13	未承認薬でも必要とする患児がいるため使用せざるを得ない	1	2	3	4
14	小児治験について患児へ説明することが難しい	1	2	3	4
15	小児治験への参加は小児科医として必要である	1	2	3	4
16	小児治験は責任が重大であり負担である	1	2	3	4
17	小児用医薬品の安全性の確保が必要である	1	2	3	4
18	小児治験について保護者へ説明することが難しい	1	2	3	4
19	小児治験に参加することで医師も新たな知識を得ることができる	1	2	3	4
20	小児治験に対して興味や関心がない	1	2	3	4
21	安全性が確認された治療薬の選択肢が乏しい	1	2	3	4
22	小児治験の参加について患児の理解と同意を得ることができない	1	2	3	4
23	小児治験に参加することで医師も学問的関与の機会が増える	1	2	3	4
24	小児治験に関する作業内容がわからない	1	2	3	4
25	小児用薬剤の安全性の検討は成人用と比べて極めて少ない	1	2	3	4
26	小児治験の参加について患児の理解と同意を得るための方法がわからない	1	2	3	4
27	新薬が早く開発されることによって助かる命も多くなる	1	2	3	4
28	有害事象時の対応が可能か不安である	1	2	3	4
29	根拠に基づく科学的な医療が行われなければならない	1	2	3	4
30	小児治験の参加について保護者の理解と同意を得ることができない	1	2	3	4
31	新薬を使用することは患児への貢献となる	1	2	3	4
32	小児治験の実施について詳細を知る機会がない	1	2	3	4
33	小児用医薬品についてエビデンスを積み重ねなければならない	1	2	3	4
34	小児治験の参加について保護者の理解と同意を得るための方法がわからない	1	2	3	4
35	有効な治療薬の開発に寄与したい	1	2	3	4
36	子どもを対象として治験を行うことがためらわれる	1	2	3	4
37	小児医療の質を向上させなければならない	1	2	3	4
38	小児治験に参加しようとする患児や保護者は少ない	1	2	3	4
39	新薬の開発に関する研究に貢献していきたい	1	2	3	4
40	経験済みの使い慣れた薬物で治療を進めたい	1	2	3	4

B

あなたは小児治験の課題としてどのようなことが重要だと思いますか？
右の回答項目1～4のうち、もっともあてはまると思うものを
1つ選んで数字を○で囲んでください。

全く
そう
思う
ない

そう
思わ
ない

そう
思う

非常
に
そう
思う

41	患児の代理判断の仕組みについて検討する必要がある	1	2	3	4
42	患児や保護者とのトラブル発生時の支援体制があると良い	1	2	3	4
43	専門性の高い小児治験コーディネーターを育成する必要がある	1	2	3	4
44	患児との間に良好な信頼関係を築く必要がある	1	2	3	4
45	開業医でも参加しやすいシステムが整備されると良い	1	2	3	4
46	「実験台にされる」という小児治験に対する被害的なイメージを変えていく必要がある	1	2	3	4
47	小児治験への認識を高めるために情報公開をする必要がある	1	2	3	4
48	小児治験への参加によって保護者が抱える心理社会的問題へのケアが必要である	1	2	3	4
49	適応外使用の現状について社会全体に啓蒙していく必要がある	1	2	3	4
50	製薬会社へのインセンティブを考慮する必要がある	1	2	3	4
51	行政的な小児治験支援システムが構築される必要がある	1	2	3	4
52	保護者との間に良好な信頼関係を築く必要がある	1	2	3	4
53	有害事象発生時の支援体制があると良い	1	2	3	4
54	小児治験コーディネーターが病院内に常駐できると良い	1	2	3	4
55	保護者だけでなく子ども自身に対しても十分な説明が必要である	1	2	3	4
56	患児自身に利益があるかを中心に考える必要がある	1	2	3	4
57	小児治験の必要性について社会全体に啓蒙していく必要がある	1	2	3	4
58	小児治験に精通した医師を養成する必要がある	1	2	3	4
59	小児治験への参加によって患児が抱える心理社会的問題へのケアが必要である	1	2	3	4
60	医師へのインセンティブを考慮する必要がある	1	2	3	4

C

あなたは小児治験の実施についてどのようにお考えですか？
右の回答項目1～4のうち、もっともあてはまると思うものを
1つ選んで数字を○で囲んでください。

全く
そう
思う
ない

そう
思わ
ない

そう
思う

非常
に
そう
思う

61	現在自分は小児治験に積極的に取り組んでいる	1	2	3	4
62	自分には小児治験に取り組むための知識・技能がある	1	2	3	4
63	現在自分は小児治験に積極的に取り組むことのできる環境にいる	1	2	3	4
64	今後自分は小児治験に積極的に取り組んでいきたい	1	2	3	4

D

小児治験についてのお考えやご意見などございましたら
どうぞ自由にお書き下さい。

たくさんのご質問にご協力頂きましてありがとうございました！

資料 2

表 2-1. 小児治験の実施に対する質問項目

未承認薬の使用状況	a 01	小児用として承認された薬剤が稀少である
	a 13	未承認薬でも必要とする患児がいるため使用せざるを得ない
未承認薬の適応拡大	a 05	他国で小児用に承認されている薬剤の国内承認を進める必要がある
	a 09	オフラベル（適応外使用）問題を解決することが望ましい
安全性の確保	a 17	小児用医薬品の安全性の確保が必要である
	a 21	安全性が確認された治療薬の選択肢が乏しい
	a 25	小児用薬剤の安全性の検討は成人用と比べて極めて少ない
医療の発展	a 29	根拠に基づく科学的な医療が行われなければならない
	a 37	小児医療の質を向上させなければならない
医薬品の発展	a 03	小児用医薬品の開発が促進されなければならない
	a 33	小児用医薬品についてエビデンスを積み重ねなければならない
治験の有用性	a 07	小児治験によって得られるデータは有用である
	a 11	小児治験に参加すると研究費が病院の収入になるのが良い
参加の必要性	a 15	小児治験への参加は小児科医として必要である
医師への利益	a 19	小児治験に参加することで医師も新たな知識を得ることができる
	a 23	小児治験に参加することで医師も学問的関与の機会が増える
患児への利益	a 27	新薬が早く開発されることによって助かる命も多くなる
	a 31	新薬を使用することは患児への貢献となる
社会的貢献	a 35	有効な治療薬の開発に寄与したい
	a 39	新薬の開発に関する研究に貢献していきたい
実施環境の問題	b 02	小児治験は入院病棟のある施設で行うことが望ましい
時間の問題	b 06	日常の診療業務に追われていて小児治験に参加する時間的余裕がない
	b 10	小児治験よりも他の研究のために時間を費やしたい
説明の問題	b 14	小児治験について患児へ説明することが難しい
	b 18	小児治験について保護者へ説明することが難しい
同意取得の問題	b 22	小児治験の参加について患児の理解と同意を得ることができない
	b 26	小児治験の参加について患児の理解と同意を得るための方法がわからない
	b 30	小児治験の参加について保護者の理解と同意を得ることができない
	b 34	小児治験の参加について保護者の理解と同意を得るための方法がわからない
被験児不足の問題	b 38	小児治験に参加しようとする患児や保護者は少ない
人手不足の問題	b 04	人手不足により日常診療業務をこなすのに精一杯である
情報不足の問題	b 24	小児治験に関する作業内容がわからない

負担感の問題	b 32	小児治験の実施について詳細を知る機会がない
	b 08	小児治験の参加について保護者の理解と同意を得るための労力が負担である
	b 12	小児治験での手間のかかる煩雑な事務手続きが負担である
	b 16	小児治験は責任が重大であり負担である
不安感の問題	b 28	有害事象時の対応が可能か不安である
抵抗感の問題	b 36	子どもを対象として治験を行うことがためられる
興味関心の問題	b 20	小児治験に対して興味や関心がない
経験の問題	b 40	経験済みの使い慣れた薬物で治療を進めたい

表 2-2. 小児治験の課題に対する質問項目

インフォームド・アセント	55	保護者だけでなく子ども自身に対しても十分な説明が必要である
	41	患児の代理判断の仕組みについて検討する必要がある
一般社会への啓発	49	適応外使用の現状について社会全体に啓発していく必要がある
	57	小児治験の必要性について社会全体に啓発していく必要がある
医療不信の払拭	46	「実験台にされる」という小児治験に対する被害的なイメージを変えていく必要がある
支援体制の工夫	54	小児治験コーディネーターが病院内に常駐できると良い
	45	開業医でも参加しやすいシステムが整備されると良い
リスク・トラブル対応	53	有害事象発生時の支援体制があると良い
	42	患児や保護者とのトラブル発生時の支援体制があると良い
製薬会社の役割	50	製薬会社へのインセンティブを考慮する必要がある
人材育成	58	小児治験に精通した医師を養成する必要がある
	43	専門性の高い小児治験コーディネーターを育成する必要がある
行政による取り組み	51	行政的な小児治験支援システムが構築される必要がある
子どもと家族への配慮	59	小児治験への参加によって患児が抱える心理社会的問題へのケアが必要である
	48	小児治験への参加によって保護者が抱える心理社会的問題へのケアが必要である
	56	患児自身に利益があるかを中心に考える必要がある
情報不足	47	小児治験への認識を高めるために情報公開をする必要がある
医師・患者との関係	44	患児との間に良好な信頼関係を築く必要がある
	52	保護者との間に良好な信頼関係を築く必要がある
治験実施者への評価	60	医師へのインセンティブを考慮する必要がある

表 2-3. 小児治験の参加に対する質問項目

医師個人の参加状況	61	現在自分は小児治験に積極的に取り組んでいる
小児治験の知識・技能	62	自分には小児治験に取り組むための知識・技能がある
小児治験の実施環境	63	現在自分は小児治験に積極的に取り組むことのできる環境にいる
小児治験への参加意志	64	今後自分は小児治験に積極的に取り組んでいきたい

資料 3

表 3-1 所属機関1

項目	度数	比率
国公立大学病院	322	40.8%
私立大学病院	203	25.7%
国公立小児病院	232	29.4%
私立小児病院	11	1.4%
無回答	22	2.8%
計	790	100.0%

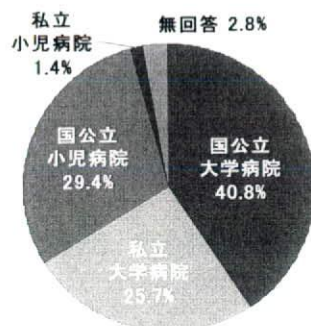


図3-1 所属機関1

表 3-2 所属機関1(国公立/私立)

項目	度数	比率
国公立病院	554	70.1%
私立病院	214	27.1%
無回答	22	2.8%
計	790	100.0%

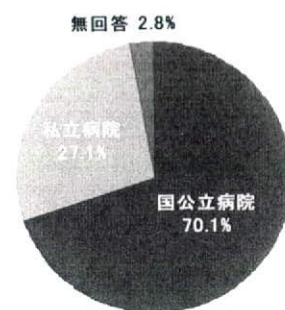


図3-2 所属機関1(国公立/私立)

表 3-3 所属機関1(大学/小児)

項目	度数	比率
大学病院	525	66.5%
小児病院	243	30.8%
無回答	22	2.8%
計	790	100.0%

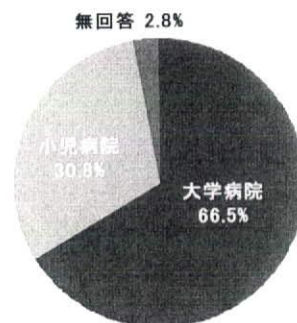


図3-3 所属機関1(大学/小児)

表 3-4 所属機関2

項目	度数	比率
小児専門病院	258	32.7%
小児専門でない病院	518	65.6%
無回答	14	1.8%
計	790	100.0%

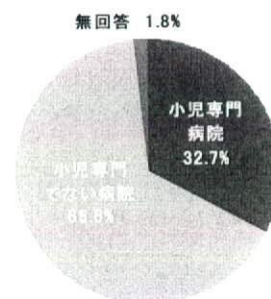


図3-4 所属機関2

表 3-5 臨床經驗年数

項目	度数	比率
5年未満	45	5.7%
5年以上10年未満	193	24.4%
10年以上15年未満	155	19.6%
15年以上20年未満	138	17.5%
20年以上25年未満	114	14.4%
25年以上30年未満	83	10.5%
30年以上	59	7.5%
無回答	3	0.4%
計	790	100.0%

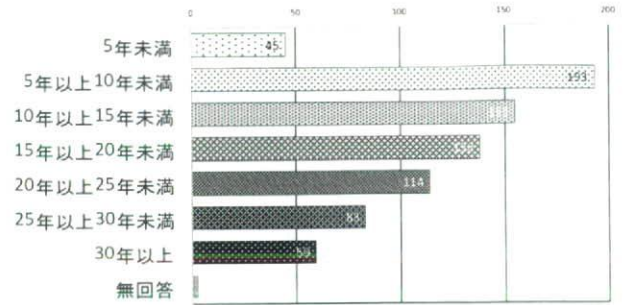


図 3-5. 臨床經驗年数

表 3-6 臨床経験年数と所属機関1

項目	国公立	私立	国公立	私立	無回答	全体
	大学病院	大学病院	小児病院	小児病院		
5年未満	8 2.5%	21 10.3%	12 5.2%	1 9.1%	3 13.6%	45 5.7%
5年以上10年未満	83 25.8%	51 25.1%	52 22.4%	2 18.2%	5 22.7%	193 24.4%
10年以上15年未満	68 21.1%	41 20.2%	40 17.2%	2 18.2%	4 18.2%	155 19.6%
15年以上20年未満	76 23.6%	26 12.8%	34 14.7%	1 9.1%	1 4.5%	138 17.5%
20年以上25年未満	52 16.1%	28 13.8%	33 14.2%	0 0.0%	1 4.5%	114 14.4%
25年以上30年未満	19 5.9%	22 10.8%	35 15.1%	4 36.4%	3 13.6%	83 10.5%
30年以上	16 5.0%	14 6.9%	24 10.3%	1 9.1%	4 18.2%	59 7.5%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	0 0.0%	1 4.5%	3 0.4%
計	322 100.0%	203 100.0%	232 100.0%	11 100.0%	22 100.0%	790 100.0%

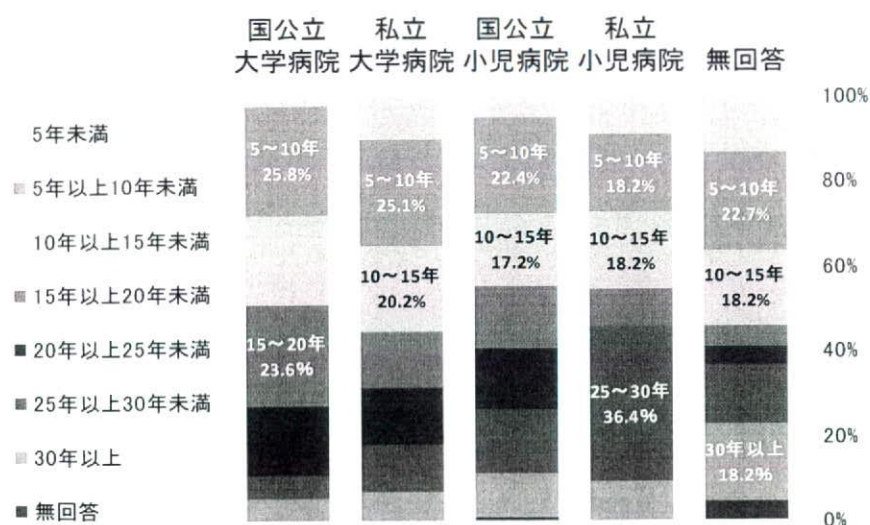


図 3-6 臨床経験年数と所属機関1

表 3-7 臨床経験年数と所属機関1(国公立/私立)

項目	国公立病院	私立病院	無回答	全体
5年未満	20 3.6%	22 10.3%	3 13.6%	45 5.7%
5年以上10年未満	135 24.4%	53 24.8%	5 22.7%	193 24.4%
10年以上15年未満	108 19.5%	43 20.1%	4 18.2%	155 19.6%
15年以上20年未満	110 19.9%	27 12.6%	1 4.5%	138 17.5%
20年以上25年未満	85 15.3%	28 13.1%	1 4.5%	114 14.4%
25年以上30年未満	54 9.7%	26 12.1%	3 13.6%	83 10.5%
30年以上	40 7.2%	15 7.0%	4 18.2%	59 7.5%
無回答	2 0.4%	0 0.0%	1 4.5%	3 0.4%
計	554 100.0%	214 100.0%	22 100.0%	790 100.0%

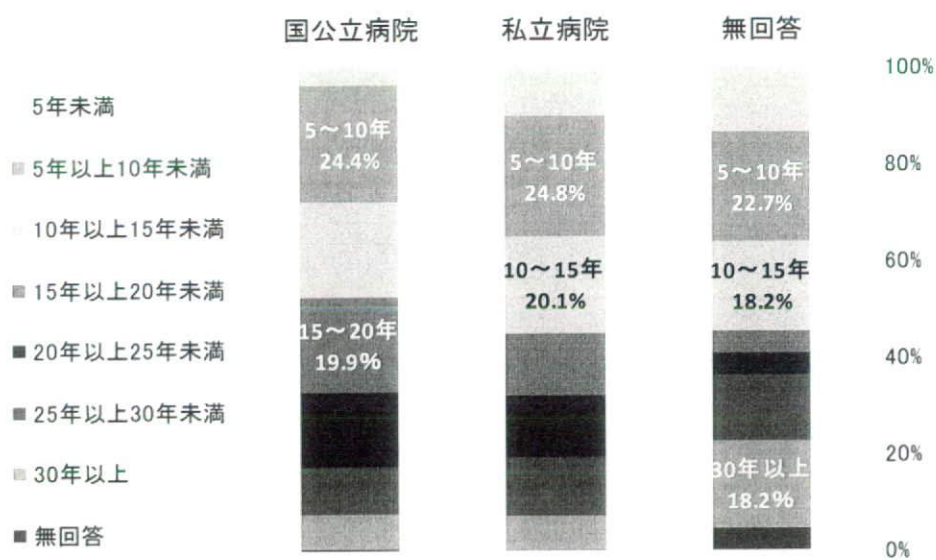


図 3-7 臨床経験年数と所属機関1(国公立/私立)

表 3-8 臨床経験年数と所属機関1(大学/小児)

項目	大学病院	小児病院	無回答	全体
5年未満	29 5.5%	13 5.3%	3 13.6%	45 5.7%
5年以上10年未満	134 25.5%	54 22.2%	5 22.7%	193 24.4%
10年以上15年未満	109 20.8%	42 17.3%	4 18.2%	155 19.6%
15年以上20年未満	102 19.4%	35 14.4%	1 4.5%	138 17.5%
20年以上25年未満	80 15.2%	33 13.6%	1 4.5%	114 14.4%
25年以上30年未満	41 7.8%	39 16.0%	3 13.6%	83 10.5%
30年以上	30 5.7%	25 10.3%	4 18.2%	59 7.5%
無回答	0 0.0%	2 0.8%	1 4.5%	3 0.4%
計	525 100.0%	243 100.0%	22 100.0%	790 100.0%

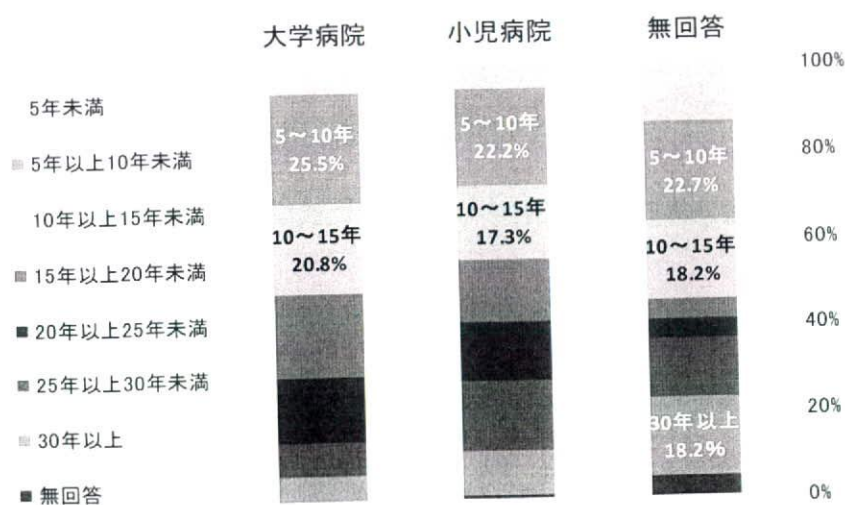


図 3-8 臨床経験年数と所属機関1(大学/小児)

表 3-9 臨床経験年数と所属機関2

項目	小児 専門病院	小児専門 でない病 院	無回答	全体
5年未満	11 4.3%	34 6.6%	0 0.0%	45 5.7%
5年以上10年未満	60 23.3%	132 25.5%	1 7.1%	193 24.4%
10年以上15年未満	46 17.8%	104 20.1%	5 35.7%	155 19.6%
15年以上20年未満	42 16.3%	94 18.1%	2 14.3%	138 17.5%
20年以上25年未満	34 13.2%	77 14.9%	3 21.4%	114 14.4%
25年以上30年未満	39 15.1%	44 8.5%	0 0.0%	83 10.5%
30年以上	24 9.3%	33 6.4%	2 14.3%	59 7.5%
無回答	2 0.8%	0 0.0%	1 7.1%	3 0.4%
計	258 100.0%	518 100.0%	14 100.0%	790 100.0%

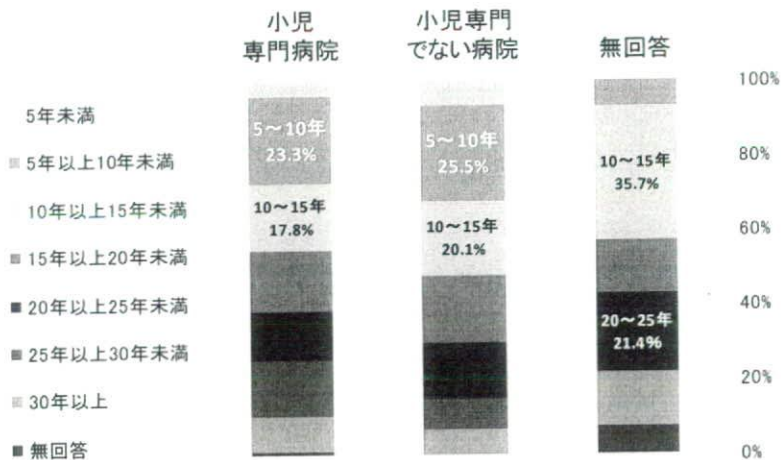


図 3-9 臨床経験年数と所属機関2

表 3-10 卒後年数

項目	度数	比率
5年未満	40	5.1%
5年以上10年未満	185	23.4%
10年以上15年未満	157	19.9%
15年以上20年未満	143	18.1%
20年以上25年未満	114	14.4%
25年以上30年未満	88	11.1%
30年以上	61	7.7%
無回答	2	0.3%
合計	790	100.0%

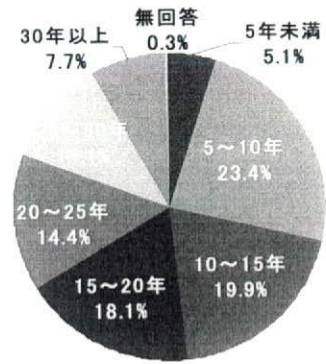


図3-10 卒後年数

表 3-11 卒後年数と所属機関1

項目	国公立	私立大	国公立	私立	無回答	全体
	大学病院	学病院	小児病院	小児病院		
5年未満	7 2.2%	19 9.4%	10 4.3%	1 9.1%	3 13.6%	40 5.1%
5年以上10年未満	76 23.6%	50 24.6%	52 22.4%	2 18.2%	5 22.7%	185 23.4%
10年以上15年未満	71 22.0%	40 19.7%	40 17.2%	2 18.2%	4 18.2%	157 19.9%
15年以上20年未満	77 23.9%	29 14.3%	35 15.1%	1 9.1%	1 4.5%	143 18.1%
20年以上25年未満	53 16.5%	27 13.3%	33 14.2%	0 0.0%	1 4.5%	114 14.4%
25年以上30年未満	22 6.8%	23 11.3%	36 15.5%	4 36.4%	3 13.6%	88 11.1%
30年以上	16 5.0%	14 6.9%	26 11.2%	1 9.1%	4 18.2%	61 7.7%
無回答	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%	2 0.3%
計	322 100.0%	203 100.0%	232 100.0%	11 100.0%	22 100.0%	790 100.0%

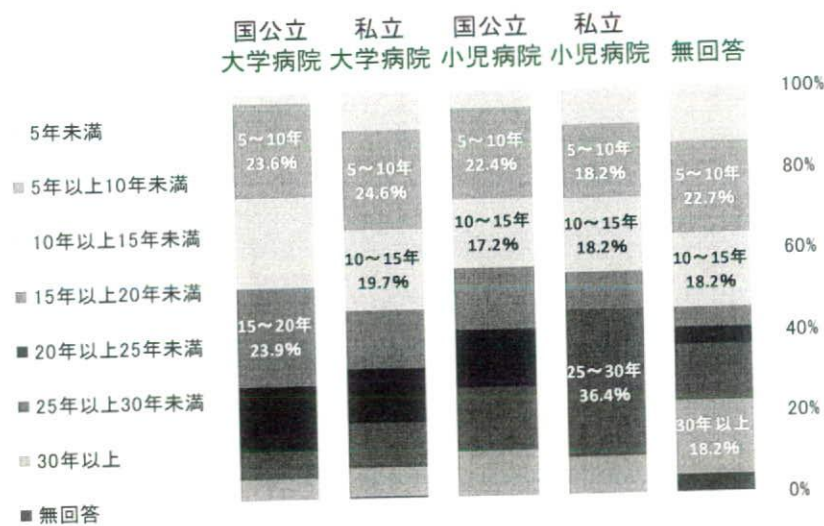


図 3-11 卒後年数と所属機関1

表 3-12 卒後年数と所属機関1(国公立/私立)

項目	国公立 病院	私立 病院	無回答	全体
5年未満	17 3.1%	20 9.3%	3 13.6%	40 5.1%
5年以上10年未満	128 23.1%	52 24.3%	5 22.7%	185 23.4%
10年以上15年未満	111 20.0%	42 19.6%	4 18.2%	157 19.9%
15年以上20年未満	112 20.2%	30 14.0%	1 4.5%	143 18.1%
20年以上25年未満	86 15.5%	27 12.6%	1 4.5%	114 14.4%
25年以上30年未満	58 10.5%	27 12.6%	3 13.6%	88 11.1%
30年以上	42 7.6%	15 7.0%	4 18.2%	61 7.7%
無回答	0 0.0%	1 0.5%	1 4.5%	2 0.3%
計	554 100.0%	214 100.0%	22 100.0%	790 100.0%

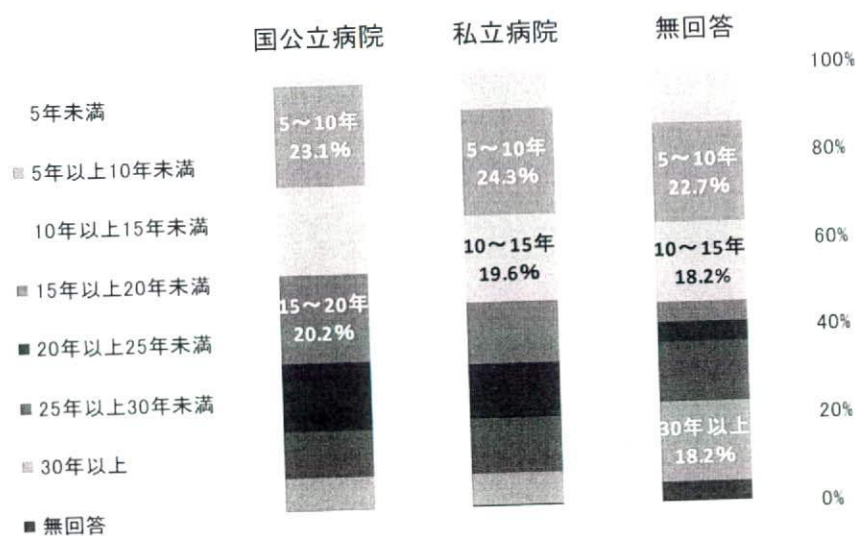


図 3-12 卒後年数と所属機関1(国公立/私立)

表 3-13 卒後年数と所属機関1(大学／小児)

項目	大学病院	小児病院	無回答	全体
5年未満	26 5.0%	11 4.5%	3 13.6%	40 5.1%
5年以上10年未満	126 24.0%	54 22.2%	5 22.7%	185 23.4%
10年以上15年未満	111 21.1%	42 17.3%	4 18.2%	157 19.9%
15年以上20年未満	106 20.2%	36 14.8%	1 4.5%	143 18.1%
20年以上25年未満	80 15.2%	33 13.6%	1 4.5%	114 14.4%
25年以上30年未満	45 8.6%	40 16.5%	3 13.6%	88 11.1%
30年以上	30 5.7%	27 11.1%	4 18.2%	61 7.7%
無回答	1 0.2%	0 0.0%	1 4.5%	2 0.3%
計	525 100.0%	243 100.0%	22 100.0%	790 100.0%

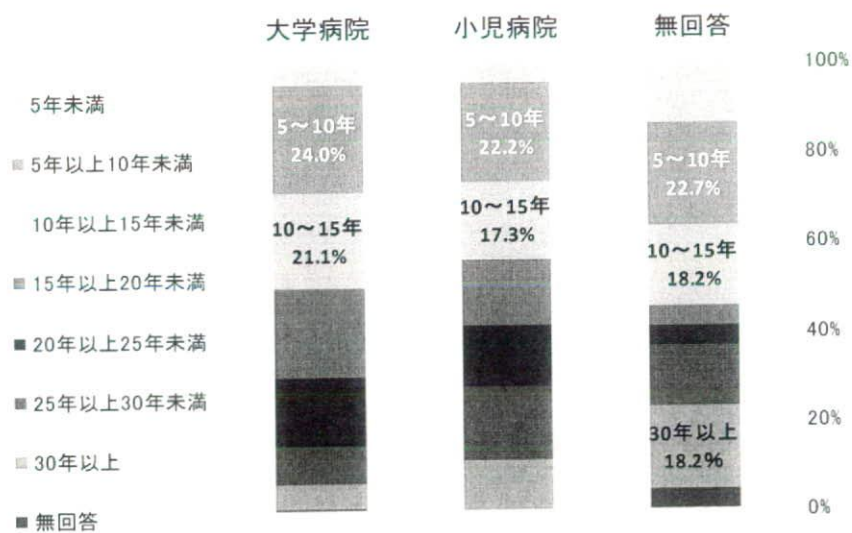


図 3-13 卒後年数と所属機関1(大学／小児)

表 3-14 臨床経験年数と所属機関2

項目	小児専門 病院	小児専門 でない病院	無回答	全体
5年未満	11 4.3%	29 5.6%	0 0.0%	40 5.1%
5年以上10年未満	57 22.1%	127 24.5%	1 7.1%	185 23.4%
10年以上15年未満	47 18.2%	105 20.3%	5 35.7%	157 19.9%
15年以上20年未満	42 16.3%	99 19.1%	2 14.3%	143 18.1%
20年以上25年未満	35 13.6%	76 14.7%	3 21.4%	114 14.4%
25年以上30年未満	40 15.5%	48 9.3%	0 0.0%	88 11.1%
30年以上	26 10.1%	33 6.4%	2 14.3%	61 7.7%
無回答	0 0.0%	1 0.2%	1 7.1%	2 0.3%
計	258 100.0%	518 100.0%	14 100.0%	790 100.0%

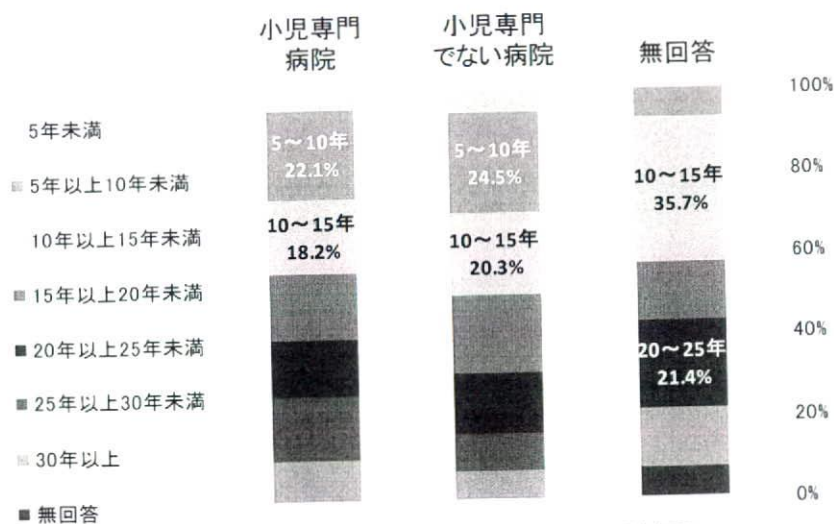


図 3-14 臨床経験年数と所属機関

表 3-15 所属診療科

項目	度数	比率
小児科	639	80.9%
小児専門の診療科	123	15.6%
その他の診療科	26	3.3%
無回答	2	0.3%
計	790	100.0%

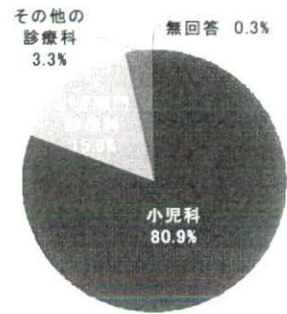


図3-15 所属診療科

表 3-16 所属診療科と所属機関1

項目	国公立大 学病院	私立大学 病院	国公立小 児病院	私立小児 病院	無回答	全体
小児科	304 94.4%	191 94.1%	117 50.4%	9 81.8%	18 81.8%	639 80.9%
小児専門の診療科	4 1.2%	10 4.9%	105 45.3%	1 9.1%	3 13.6%	123 15.6%
その他の診療科	14 4.3%	2 1.0%	9 3.9%	1 9.1%	0 0.0%	26 3.3%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	1 4.5%	2 0.3%
計	322 100.0%	203 100.0%	232 100.0%	11 100.0%	22 100.0%	790 100.0%

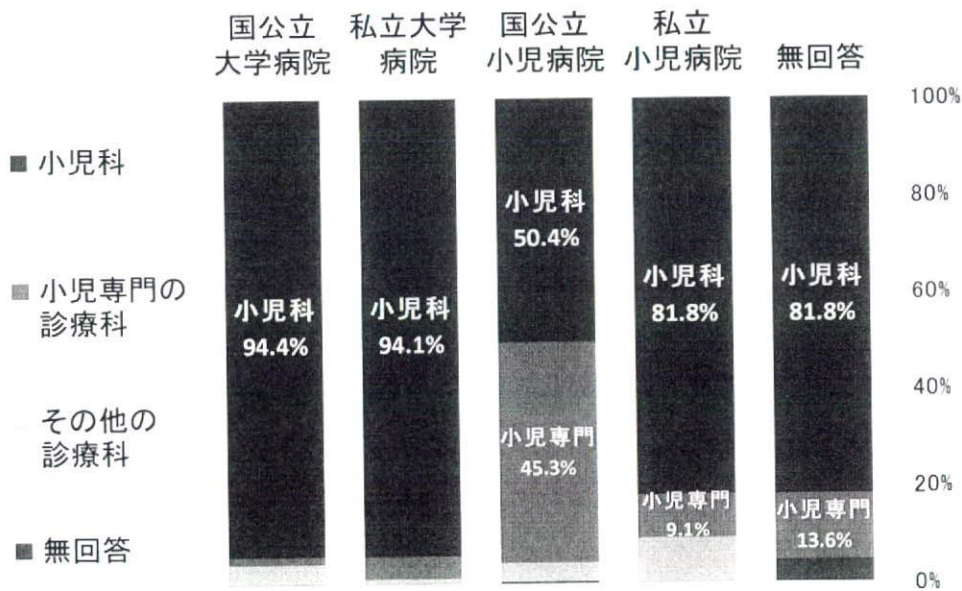


図 3-16 所属診療科と所属機関1